

***親子で納得 ニュースな経済学

経済ジャーナリスト・内田裕子

いま、世界経済のなかでアジアの存在感が高まっています。その理由は、世界金融危機で欧米経済が元気をなくしているなかで、中国やインドなどのアジア経済は目を見張るような活力があるからです。GDP（国内総生産）の成長率を見ると、ほとんどの国がマイナス成長の中、中国やインドは、5%以上の成長が予想されています。もちろん金融危機の影響も多少ありますが、アジアの国の人たちには「自分たちも豊かになりたい」という強い願望があります。その思いが原動力になって、国の経済成長を押し上げているのです。

日本や欧米のような先進国に比べて、アジアでは、道路や鉄道、電力や住宅などが足りません。いまの日本では「新しい高速道路はいるか、いら

世界経済を引っ張るアジア経済

ないか」という議論が起こりますが、中国では「いらない」という意見はありません。むしろ、やればやるほど経済全体の効率が高くなるのです。

経済成長の余地があるアジアにはビジネスチャンスがたくさんあります。だから、世界経済を引っ張る役目として、アジアが注目されています。アジアの影響は日本の会社の業績にもあらわれています。日本の会社は世界中でビジネスをしていますが、お金をかせぐ先としてアジアへの依存度が急速に高まっているのです。上場企業（株式が証券取引所で売り買いされている会社）が2009年3月期にかせいだ利益のうち、アジア地域の比率は38%と過去最高となりました。日米欧でのビジネスが赤字のなか、アジアでのビジネスだけが黒字となりました。ですから、今後の日本経済の成長にはアジアの力が欠かせないのです。同時にアジアでは、日本の会社の資本力や技術をほしがっています。おたがいを必要としていますから、日本の会社のアジア進出は進んでいくでしょう。

各国のGDP成長率(%)

国名	2008年	09年見通し	10年見通し
日本	▲0.6	▲6.2	0.5
アメリカ	1.1	▲2.8	0.0
ドイツ	1.3	▲5.6	▲1.0
フランス	0.7	▲3.0	0.4
イタリア	▲1.0	▲4.4	▲0.4
イギリス	0.7	▲4.1	▲0.4
中国	9.0	6.5	7.5
インド	7.3	4.5	5.6

▲はマイナス
※外務省の資料をもとに作成

途上国でビジネスをするのは、心配もあります。商売の法律や税金のルールなどが先進国とはちがうため、トラブルもあります。価値観なども日本人とはちがいます。だから、日本の会社は成功体験を教えつつも、アジアの人たちを理解して、現地にあったやりかたを考えていく必要があります。

プロフィール 玉川大学芸術学部専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。ウェブサイトは、<http://www.takarabe-hrj.co.jp/uchida/>